

KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

半島スペイン語における現在完了形「心理的現在」 用法の通時的変遷について

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 関西外国語大学・関西外国語大学短期大学部 公開日: 2017-04-01 キーワード (Ja): 現在完了, 心理的現在, 拡張された現在, este año, esta mañana キーワード (En): 作成者: 辻井, 宗明 メールアドレス: 所属: 関西外国語大学
URL	https://doi.org/10.18956/00007722

半島スペイン語における現在完了形「心理的現在」用法の 通時的変遷について

辻井 宗 明

要 旨

主にスペインのスペイン語では、hoy, esta mañana, este mes, este añoのような発話の現在を含んで把握される事態には現在完了形が使用され「心理的現在」の用法と呼ばれる。しかし、現在ではanocheやayerという発話の現在の外にあると思われる事態にまで現在完了形が口語を中心に広がっている。このような現象がいつどのような形で始まったのかを観察するため、「心理的現在」の用法をデータバンクで統計をとって通時的に観察した。その結果、hoy, este mes/añoのような発話の現在を含む表現と、hoyの中では内在する過去であることから厳密には発話の現在の外にあるesta mañanaとは発達の時期がまったく異なることがわかった。このような事実から、それぞれの指示副詞と共起する現在完了形は、異なった用法で発達してきて現在に至っていることを明らかにしたい。

キーワード：現在完了、心理的現在、拡張された現在、este año、esta mañana

0. はじめに¹⁾

現代半島スペイン語では、発話の現在を含んで把握される時間領域の事態には主に現在完了形 (he cantado) が使用され、hoy, esta mañana, este mes, este añoなどの発話の現在、すなわち話者の“今”を含む「時」の表現（以後は、近接的指示副詞と称す）と共起することが多く、この用法は、「心理的現在」(presente psicológico) と呼ばれることがある²⁾。実際、スペインのスペイン語において、これらの近接的指示副詞がどの程度現在完了形と使われているのかを単純過去形 (canté) と対立させて調査してみた³⁾。

表1 現代スペイン語における近接的指示副詞と共起する現在完了形使用率⁴⁾

	hoy	esta mañana	este mes	este año
現在完了形	71%	75%	72%	80%

どれも70%以上が現在完了形と共起しており、初級文法のテキストでは必ずと言っていいほど現在完了形の重要な用法の一つとして言及される所以である。

ところが、次のように近接性とは一致しない指示副詞、すなわち、話者の“今”の外の事態を表すと考えられる副詞である *anoche* や時には *ayer* と現在完了形が共起するような用例が、(1)「昨夜到着した」(2)「昨日回答をもらった」のような例で見られることも事実である。

(1) Poca ocasión ha habido. **Hemos llegado** anoche, a las tres de la mañana, hora de aquí, y nos vamos dentro de un rato. (*Informe Semanal*, 03/11/1984, TVE 1, CREA, oral)

(2) Lo que pasa que yo creo que eso te lo **han respondido** ayer en la calle. (*Hoy es domingo*, 16/02/2003, Onda Cero, CORPES, oral)

古くは Alarcos (1947:119) がこの現象に言及し、¿Cuándo te lo ha dicho, si no la has visto en muchos días? – La **he visto** anoche. という例を出し、回答者は *he visto* を質問者の *has visto* につられて発話し、その後、「時」の副詞 (*anoche*) を付け加えたただけだという文体論的な説明をしている。確かに(1)に関しては、*Poca ocasión ha habido*. という現在完了形につられてい
る可能性はあるが、(2)では文脈を見てもその要素はない。また、これらは、「付け加え」られたかのようにすべて副詞が後置されているが、(3)「昨夜宿屋にいて情報を得た」というような例で、副詞が前置された例もある。

(3) Remedios. – (Confidencial.) Anoche **he estado** en la posada y he pedido informes. Resulta que el don Pepito y el brigadier Batalla están siempre juntos. (Martínez Ballesteros, Antonio: «Doña Perfecta». *Doña Perfecta. Tres, número impar*. Madrid: Fundamentos, 2009, COPRES)

特に口語では Alarcos の言うように「つられて」(*arrastrado*) ということがあるのかもしれない。確かに(1)、(2)は口語であり、(3)は戯曲の台詞部分である。しかしながら、次の(4)の「昨夜、少なくとも2人の観光客が命を落とした」のように、報道ではあるが書き言葉にもその例が見られる。

(4) Al menos dos turistas **han resultado muertos** anoche y otros veinte heridos al colisionar un autobús de turistas británicos contra un camión, según informaron fuentes de la Guardia Civil de Tarragona. (ABC, 21/06/1986: *Dos turistas muertos en accidente de autocar*, CREA)

口語が中心ではあるが、ここで感じられる違和感は、話者の“今”を含む時間の外を示す副詞に、通常なら単純過去形の使用が期待されるような、一点に集約され統合された完了的な事態 (以

後はアオリスト、もしくはアオリスト事態）で現在完了形が使われていることに由来する。このような例に関して Rojo (1974:106) は、lo he visto anoche. や ha nacido ayer. の例を挙げ、基準と同時性を示す時制形式（現在完了形）を、その同時性を示さない副詞（anoche や ayer）と共に使うことは、当該事態への明らかな心理的接近であると説明している⁵⁾。だからこそ伝統的に「心理的現在」という名称で呼ばれているのであろうが、では、元々「もつ」という意味の haber と過去分詞を組み合わせた迂言形式で「結果」を表していたとされる <he+p.p.> が、いつ頃どのようにして、このようなアオリスト事態に接近できる用法をもつに至ったのだろうか。

Harris (1982:49-50) は、現在完了形の変遷を4期に分け、第1期：結果 (present state resulting from past actions)、第2期：継続・反復 (durative or repetitive)、第3期：現在と関連した過去の行為 (past actions with present relevance)、第4期：現在と関連のない過去の状況 (aorist) としている。そして、フランス語やイタリア語のいくつかの変種では第4期まで発達したが、半島スペイン語では第3期までであると述べている。しかしながら、その意見に対して Penny (2000:247) は、(1)~(4)に類似した用法に言及して、現在完了形が単純過去形の領域に侵入する用法は限られるが、西アンダルシアやイスマノアメリカの一部、そして、Madrid の若者の間で見受けられるとしている。このような現象を、現在完了形の単純過去形への接近であると捉えている研究者もいる。Hernández (1982:254-255) は、現在完了形の通時的側面に触れ、それは「単純過去形への接近」(el tiempo se ha aproximado al tradicional *indefinido* o *perfecto absoluto*...) であると捉えているし、この現在完了形の現代の用法の一つとして「話者が自ら存在する時間領域で発話を行う」(marca los anunciados en unidad temporal dentro de la que aún se encuentra aquél.) としながらも、「現在完了形が拡張された現在であるというのはふさわしいとは思わない。実際にはむしろ、現在時と関係をもったひとつの過去である」(no creo conveniente decir que el perfecto es un presente ampliado... en la actualidad es, más bien, un pasado... que guarda relación con el presente.) としている。また、寺崎 (1998:37) も「(現在完了形も単純過去形も) どちらも発話時点より前の事象を表す時制であるため、現在完了が過去時制に接近しやすいのは事実である」として、ayer と共起する現在完了形の例を提示している。

さて、本稿では、このような現在完了形によるアオリストへの接近について、いくつかの近接的指示副詞と共起する直説法現在完了形の使用頻度を通時的に統計調査し、その始まりをできるだけ明らかにしたいと思う。コーパスには年代に応じてRAEのCORDE (Corpus Diacrónico del Español)、CREA (Corpus de Referencia del Español Actual) 及びCORPES (Corpus del español del siglo XXI) の散文 (スペインに限る) を利用した。

1. 「心理的現在」用法と共起する近接的指示副詞

現在完了形の所謂「心理的現在」に関して、Gili Gaya (1976:159) は、現在時と関係がある過去の完了した行為を意味し、この関係性は現実のものでもいいし、話者が感じているものでもいいとし⁶⁾、例文では、esta mañana, este mes, el siglo presente という「時」の副詞と共起した現在完了形を提示している。RAE (1979:465-466) でも記述はほぼ同じで、共起する「時」の副詞に hoy, este año, el siglo actual などを挙げている。RAE y ASALE (2009:1729) では、この用法は、「今日に限定された直近の出来事の完了的な過去」(pretérito perfecto de hechos recientes limitados al día de hoy) として説明され、「時」の副詞としては el día de hoy, la semana/el mes/el año actuales を挙げている。他にも、寺崎 (1998:36) は「心理的現在」の用法の「現在を含む時間を意味する付加語」として hoy, esta mañana, este año を、西川 (1995:322) も「心理的現在」の用法として hoy, esta mañana, esta semana, este mes, este año の副詞と共に用いられるとしている。

RAE y ASALE (ibid.:1723、及び1730) は、en este siglo や en la presente temporada などと現在完了形が使われている例を挙げ、これらをそれぞれ aquel や pasada に換えることができなとする一方で、口語の例として Isaac Bashevis Singer, Premio Nobel de Literatura en mil novecientos setenta y ocho, *ha fallecido la pasada madrugada*. を挙げ、この時間を自由に過去に伸ばすことはできず、この例の la pasada madrugada を la semana pasada, la pasada quincena あるいは el pasado mes に交換するとおかしな文 (anómalas) になってしまうとしている。では、現在完了形のそのような境界は、通時的にどのように変化してきたのだろうか。

2. 「心理的現在」用法の通時的変遷

2.1. 既存の研究

現在完了形の諸用法の変遷を個々に追っているものは多くない。特に「心理的現在」の用法の変遷に主眼を置いた研究は非常に少ない。多くの研究は、haber の本動詞としての意味を保持していた時代の結果を示す意味機能から、本動詞の意味を棄てて助動詞化することにより、また同時に過去分詞の男性単数形への固定化という形態統語論的变化を経て、完了を表すようになったという大きな流れを捉えたものである (Urruita Cárdenas y Álvarez Álvarez, 1983:271; Yllera, 1979:276-277; Hernández, 1982:253-254)。もちろん、現在完了形の形成過程において、本動詞としての haber と tener との競合は大事な要素であるが、haber が「もつ」の意味を保持している時期では、多くの用例が過去分詞と直接目的語が性数一致しているものであり、その意味機能は結果表示がほとんどである。そして、15世紀には tener がほとんどの

haber の本動詞的意味を担ってしまっており (Yllera, 1979:293; Tsujii, 1996:110-116)、同世紀の最初には過去分詞の変化もほぼなくなってしまったか (García de Diego, 1970:234)、4分の1程度 (Yllera, 1979:283) になっている⁷⁾。そして、複合形 (formas compuestas) の示す意味機能について Rojo (1990:36) は、「結果的な意味の表示から始まり、そこから完了が出て、そして前時性が派生する」(Hay que partir, me parece, de un valor resultativo... del que surge el perfectivo y, deriva de él, la anterioridad) と述べているように、本研究の主題である「心理的現在」の用法は、完了もしくは前時性 (アオリスト) を示すものであることから、その発達を観察するためには、結果の意味表示の後の時代、すなわち15世紀以降でいいのではないかとこの予測が立てられる。

また、Alarcos (1980:46) は、現在完了形の諸用法の変遷を古い順に次のようにまとめている。

- ① 以前に起こった行為の結果が現在も続いていることを表わす。
(Expresión de la duración presente del resultado de una acción anterior)
- ② 今日のポルトガル語のように現在の状態を引き起こした継続 (反復) 的な行為を表わす。
(Expresión de la acción continuada (durativa o iterativa) que ha producido un estado presente)
- ③ 現在時制より直前の瞬時的な行為を表わす。
(Expresión de una acción momentánea inmediatamente anterior al presente gramatical)
- ④ 直前ではない、現在と関係があると意識された瞬時的な行為、すなわち、「拡張された現在」において引き起こされる瞬時的な行為を表わす。
(Expresión de una acción momentánea no inmediatamente anterior, pero sentida en relación con el presente, es decir, producida en el 'presente ampliado'.)

ここで具体的な「時」の副詞の例は出していないが、別の節において発話時を含む時間内に起こった出来事を表す副詞として hoy, ahora, estos días, esta semana, esta tarde, esta mañana, este mes, el año en curso, esta temporada, hogaño, todavía no, en mi vida, durante el siglo presente, etc. (Alarcos, ibid.:24) を挙げている。そして、④の時期として「拡張された現在」に起こった点的な行為は、15世紀の後期 *La Celestina* に始まるが、その用法ではまだ単純過去形でも使われている。そしてその後、現在完了形の用法が拡張し、過去の行為の結果を示すことをやめて直前の点的な事態に使われるのは16世紀になってからであるとしている

(Alarcos, *ibid.*:42-43)。そして、これらに続けて Andres-Suárez (1994:196) は、17世紀にはあらゆる複合形式が文法化されるとしている。

話者の“今”を含む現在完了形の用法に関する通時的な記述に関して、Company (2006:55-56) は、*Quijote* の時期には話者の“今”の外の事態には *canté* を、“今”を含む事態には *he cantado* をという対立が作られ始めているところではあるがまだ完結していない。すなわち、17世紀では話者の“今”を含む事態にも単純過去形が少なからず使われているとして、*Quijote* において *hoy* と共に現在完了形と単純過去形が使われている例を挙げ、現代のような *canté* と *he cantado* の対立が確立するのは18世紀だろうと述べている。

鈴木 (2004:138-216) は、現在完了形の用法を「直前の完了」「継続・反復」「結果状態」の3類型に分けて綿密な調査を行っている。そして、結論として、上記の Alarcos (1980) の4つの用法が順番通りに意味が発展していったというよりもむしろ、かなり早い段階からすべての用法が現れており、14世紀までにすべての用法の例が確認可能であるとしている。そして、15世紀末から17世紀における戯曲3作品を調査した結果、氏の言う「直前(拡張された現在)の完了」の用法については、現在完了形と単純過去形のいずれかが優勢ということはなく作品にばらつきがあり、16世紀の自伝形式の1作品では、基本的にはほぼ現代半島スペイン語と相違がないと述べている。ただ、鈴木「直前(拡張された現在)の完了」には、「発話時を含む時間軸上で完了した事象を述べる点で共通している」(鈴木, *ibid.*:96)ということから、「拡張された現在」「直前の完了」「経験」、そして *pasado indefinido*⁸⁾ をすべて含めて統計を取っている。しかし、本稿筆者は、現在完了形のアオリストへの接近は、狭い意味での「心理的現在」から派生していると考えているので、「結果状態」や「継続・反復」はもちろんのこと、「経験」を含む「直前の完了」とも区別し、くわえて時間限定(近接的指示副詞)が統語的に顕在している「心理的現在」のみを追ってみたいと考えている。

本研究の主題にしている話者の“今”を含む「時」の副詞と共に起る現在完了形ということで、一番近い研究は Thibault (2000:62-77) のものであろう。15世紀～16世紀の文学作品、すなわち *La Celestina* (1499)、*Obras completas IV Teatro de Juan del Encina* (1496-1516)、*Diálogo de la lengua* (1535-1536) において、「点的な時間表現」(*Indicadores temporales puntuales*) として「直前的な過去の表現」(*Indicadores de tiempo pasado muy reciente*) と共に、現在完了形や単純過去形がどの程度使われているか観察している。まとめると次のようになる(括弧内は用例に使われた「時」の副詞)。

	〈現在完了形〉	〈単純過去形〉
<i>La Celestina</i>	7 (oy) 1 (esta mañana)	4 (oy, el día de oy) 3 (en este día, esta noche, este día) 3 (no á cuatro horas que, no á mucho que, no á ocho días que)
<i>Teatro Encina</i>	3 (oy)	7 (oy, en ese día) 6 (aquesta mañana, de gran mañana aqueta noche, esta noche)
<i>Diálogo</i>	6 (esta mañana)	2 (esta mañana)

La Celestina では、両形式の使用は同程度、*Teatro Encina* では単純過去形が優勢であり、*Diálogo de la leugna* では現在完了形が上回っている。すなわち、いずれを用いるかは作品の種類によって左右されるとも考えられるのだろうか。ただ、鈴木 (ibid.:183-184) の hoy に関する調査では、*Libro de la vida* (1562-1565) において現在完了形が6例と単純過去形1例というように16世紀では現在完了形の優勢が認められたようである。

2. 2. 統計による調査

このように既存の研究を概観すると、現在完了形の用法は概ね「結果状態」から「完了」そして「心理的現在」へと発達してきたと考えていいだろう。そして、Alarcos (1980) や Thibault (2000) の研究から予測できるように、近接性を表す指示副詞と共起する現在完了形は1500年代以降に出現してきたのではないかと考えられる。そこで、この節では、RAE のデータバンクである CREA, CORDE, CORPES を使って主な近接的指示副詞と共起する現在完了形を単純過去形と対立させてその使用率を調査してみたい。

2. 2. 1. hoy

まず、hoy に関して調査してみた⁹⁾。

表2 hoy と共起する現在完了形と単純過去形

単位：例

	1400-1499	1530-1569	1630-1659	1700-1799	1848-1852	1948-1952	2012
現完	23 (16%)	122 (68%)	67 (69%)	30 (86%)	74 (94%)	61 (85%)	374 (71%)
単過	119 (84%)	57 (32%)	29 (31%)	5 (14%)	5 (6%)	11 (15%)	153 (29%)
合計	142 (100%)	179 (100%)	96 (100%)	35 (100%)	79 (100%)	72 (100%)	527 (100%)

表2を見てわかるように、すでに1500年代に70%近くが現在完了形と共起している。この時期における現在完了形の優勢は、前述した鈴木 (ibid.) による *Libro de la vida* (1562-1565) に

おける hoy の調査結果とも一致する。また、興味深いことに、1400年代には、(5)の「今日はもうミサに与り、神の御姿も拝見しました」という例で両形式が並列で使われている例がある。

- (5) - No es necesario -dixo Galaor-, que ya oy **he oído** missa y **vi** el verdadero Cuerpo de Dios.
(*Amadís de Gaula, libros I y II*, Rodríguez de Montalvo, Garci, 1482-1492)

指示副詞 oy は he oído と vi にかかっており、両形式の差は相当小さくなっていることが認められる例であろう。

ただ、(6)の「今日我々に起こったこのことすべてを話そう」のように1400年代にはまだ haber と過去分詞の振り分けの例も見られる。

- (6) ... y entonces les contare todo esto que nos **a oy** **acontecido**... (*Traducción de Lanzarote del Lago*, Anónimo, 1414, Hispanic Seminary of Medieval Studies, Madison, 1999)

haber と過去分詞の間に文要素が介在する例に関して、Company (1983:251-252) は、12世紀から15世紀までの4作品を調査し、14世紀最初から15世紀の終わりにかけては、介在の例は9%と、その使用は稀であると述べている。つまり、<haber+p.p.> が形態統語論的に固定される過渡期後半には、hoy と現在完了形の共起はすでに一般化しつつあったと言えよう¹⁰⁾。

2. 2. 2. este mes

次に este mes に関して調査してみた。しかしながら、この近接的指示副詞は用例が少ない¹¹⁾。

表3 (en) este (aqueste) mes と共起する現在完了形と単純過去形 単位：例

	1400-1499	1500-1599	1600-1699	1700-1799	1800-1899	1900-1999	2000-2014
現完	3 (30%)	4 (36%)	8 (80%)	0	6 (100%)	19 (68%)	60 (72%)
単過	7 (70%)	7 (64%)	2 (20%)	0	0 (0%)	9 (32%)	23 (28%)
合計	10 (100%)	11 (100%)	10 (100%)	0	6 (100%)	28 (100%)	83 (100%)

1700年代は、対象の条件に合う este mes は見つからなかったが、おそらく前後の年代の状況から考えると現在完了形は広まっていただろうと推測できる。さて、1600年代の80%という数値から、この時期ではすでに現在完了形との使用は相当一般化していたのだろう。次に見る(7)と(8)の1500年代の用例は、それぞれ「今月当直番であった Antonio de Luzon 氏が García Lopez 氏と Francisco d'Alcala 氏を指名した」と「今月当直番であった Francisco d'Alcala 氏が、次の当番として騎士団長 García Lopez 氏と Francisco de Vargas 氏を指名した」という

同じ作品内ではほぼ同じ意味と語彙を使った用例であるが、そこではそれぞれ現在完了形 (ha residido) と単純過去形 (residio) という異なった時制形式が使われている。このことから1500年代ではすでに競合がはじまっていたことが確認できる。

- (7) Nonbro el señor Antonio de Luzon, que **ha residido** este mes, a los señores García Lopez e Françisco d'Alcala e dioseles cargo para hazer la cala del pan (*Acuerdos del Concejo Madrileño*, 1502-1515, Rosario Sánchez González; María del Carmen Cayetano Martín)
- (8) Nonbro el señor Françisco d'Alcala, que **residio** este mes, para residir el venidero, a los señores, comendador García Lopez y Françisco de Vargas. Regidores que residen. (*Acuerdos del Concejo Madrileño*, 1502-1515, Rosario Sánchez González; María del Carmen Cayetano Martín)

ただ、este mes は用例数に問題があるので、este año の傾向も調査してみよう。

2. 2. 3. este año

este año も、本研究で必要としている形での直示的な用法は少なくなるが、1400年代を除いてある程度の傾向は確認できる。

表 4 (en) este (aqueste) año と共起する現在完了形と単純過去形 単位：例

	1400-1499	1500-1599	1600-1699	1700-1799	1800-1899	1900-1999	2012-2014
現完	1 (33%)	9 (60%)	18 (82%)	9 (56%)	19 (83%)	39 (75%)	75 (80%)
単過	2 (67%)	6 (40%)	4 (18%)	7 (44%)	4 (17%)	13 (25%)	19 (20%)
合計	3 (100%)	15 (100%)	22 (100%)	16 (100%)	23 (100%)	52 (100%)	94 (100%)

este mes と同じように、すでに1600年代では現在完了形との用法が82% と十分に広がっている。次の例は1500年代のもので、(9)「(オオタカの) 若鳥が今年ずいぶん飛んだのであれば、鳥屋に入れるのも悪くない」という意味の用例である。

- (9) si el pollo **ha volado** mucho este año y estás contento dél, no será malo que al principio de Abril, o demediado este mes, lo metas en la muda (*Libro de cetrería de caza de azor*, Zúñiga y Sotomayor, Fadrique de, 1565)

また、(10)のように、「今年はワインが最高値で売れ、増加分は2千ドゥカードを超えました」

という文で、一つの *este año* に単純過去形と現在完了形が並列に使用されている例があるが、その意味内容から考えると、1700年代には両形式の対立的な意味機能として、遠い過去には単純過去形を、近いものには現在完了形という意味の分化がすでにあったのかもしれない。

- (10) ... dixo: este año, señores, **se vendió** el vino á precio superior, y **ha importado** este aumento mas de dos mil ducados, que se hubieran perdido, vendimiando ántes de tiempo. (*Extractos de las Juntas Generales celebradas por la Real Sociedad Bascongada de los Amigos del País*. Anónimo, 1793)

このような対立について、14世紀の *El Conde Lucanor* の直説法過去完了形を調べた辻井 (1996) は、次の(11)「彼と約束した (*pusiera*) ことを何度反故にしてきた (*avía fallecido*) かと言った」、そして、(12)「彼が命じた (*mandara*) ことをもうおこなった (*avía fecho*) か、友人がたくさんできたか (*avía ganado*) と尋ねた」の例のように、<*avía* +p.p.> が基準となる過去時となんらかのつながりのある完了的な事態 (直前、経験、継続、結果、など) を、そして -*ra* 形が絶対的な前時を、その結果、-*ra* 形がより遠い過去を表すことが多いという統計結果を提示している。このように総合的な形態 (*cantó, cantara*) に対して分析的な形態 (*ha cantado, había cantado*) が拮抗する時期には、こうした意味機能の分化が起こるのかもしれない。

- (11) dixol que, pues tantas vexes le **avía fallecido** de lo que con él **pusiera**. (辻井, *ibid.*:335)
- (12) preguntol si **avía fecho** lo quel **mandara**, si **avía ganado** muchos amigos. (辻井, *ibid.*:335)

2. 2. 4. *esta mañana*

さて、次に *esta mañana* を観察するが、これまでの近接的指示副詞とは様相を異にしている。

表5 *esta mañana* と共起する現在完了形と単純過去形 単位：例

	1400-1499	1500-1599	1600-1699	1700-1799	1800-1899	1900-1999	2000-2012
現完	1 (10%)	16 (24%)	19 (30%)	1 (8%)	115 (41%)	387 (57%)	739 (75%)
単過	9 (90%)	52 (76%)	45 (70%)	12 (92%)	163 (59%)	296 (43%)	246 (25%)
合計	10 (100%)	68 (100%)	64 (100%)	13 (100%)	278 (100%)	683 (100%)	985 (100%)

全体を見てわかるように、*este mes* と *este año* では80%の使用率を超えていた1600年代において、*esta mañana* は未だ30%にとどまっている。1800年代でさえ41%であり、1900年代で初めて半数を超える。なお、この表5には *Diálogo de la lengua* (1535-1536) もコーパスとして

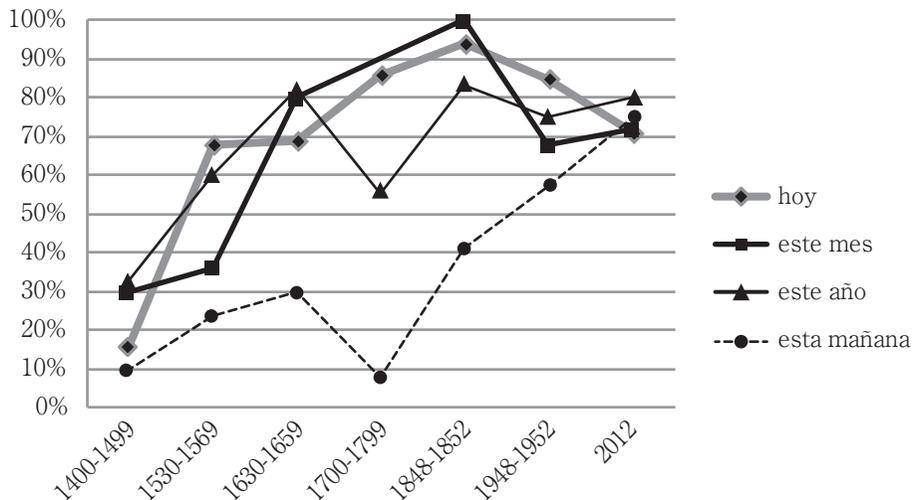
含まれているのだが、2. 1. で紹介した Thibault (2000) の同作品における *esta mañana* は、現在完了形と単純過去形の使用例が、それぞれ6例対2例と現在完了形が優勢だということであったので、この結果とは異なっている。これはどういうことか。そこで原典にあたってみた。表5の1500年代の68例中、*Diálogo de la lengua* における *esta mañana* は現在完了形6例、単純過去形が2例であり、前者の例は一つの *esta mañana* に6つの現在完了形が一連の文章の中で使用されているものであった¹²⁾。このような例は文体論的に互いに影響を受けている可能性があり注意が必要である。いずれにしても現在完了形の使用率は24%にとどまっており、前後の年代を見てもわかるように、Thibault (2000) の統計とは異なり1500年代では、*esta mañana* と現在完了形との共起率は低いと言わざるを得ない。

2. 3. 近接的指示副詞の推移のまとめ

これまで調査した近接的指示副詞、すなわち *hoy*, *este mes*, *este año*, *esta mañana* と使われる現在完了形の推移をわかりやすくするために表6にまとめ、グラフ1に示してみた¹³⁾。

表6 *hoy*, *este mes*, *este año*, *esta mañana* の単純過去形に対する現在完了形共起率の変遷

	1400-1499	1530-1569	1630-1659	1700-1799	1848-1852	1948-1952	2012
<i>hoy</i>	16%	68%	69%	86%	94%	85%	71%
<i>este mes</i>	30%	36%	80%	—	100%	68%	72%
<i>este año</i>	33%	60%	82%	56%	83%	75%	80%
<i>esta mañana</i>	10%	24%	30%	8%	41%	57%	75%



グラフ1 *hoy*, *este mes*, *este año*, *esta mañana* の単純過去形に対する現在完了形共起率の変遷

現在完了形との共起率に関して、*hoy, este mes/año* は同じように1600年代あたりから増加しているのに対して、*esta mañana* は圧倒的に遅い。1800年代を過ぎないと一般化しない。明らかに、*hoy, este mes/año* と *esta mañana* は何か異なっている。同じ用法であれば、ほぼ同じように発達するはずであろうし、資料の偏りや検証時の誤差が多少あったとしても、これほどのことはないだろう。

Salvá (1988:436) は、現在完了形が使われるのは「まだ終わっていない」(*que no ha llegado aún a su fin*) 期間であるとしている。その意味で、*mi vida, este siglo, hasta ahora* などの指示副詞を挙げているが、ただ *esta mañana* に関しては、「まだ終わっていない日の一部」(*parte del día que aún no ha acabado*) であるから現在完了形が使われると述べている。すなわち、*hoy, este mes/año/siglo* などは、話者の“今”と当該時期 (*hoy, mes, año, siglo*) が一致するが、*esta mañana* は必ずしもそうではない。発話時は「午後」であってもよい。つまり Salvá の説明は、*esta mañana* と共に現在完了形が使われるのは、話者の“今”が文内に顕在する *mañana* によるものではなくて、それが含まれる *hoy* によるのだと解釈できる。同じように、RAE y ASALE (2009:1730) は、*Me ha llamado hace unas horas.* で現在完了形が使われるのは、“*hace + 時の数量詞*”が1日を超えないからであるとしている。

しかし、彼らの説明には説得力がない。というのも、話者が発話時に属する時間領域において、その範囲に内在する過去を指示した場合、単純過去形が使われることが多い。つまり、*este mes/año* の時間領域の範囲で、その内在的な過去である「最初の頃」を表す副詞句 *a principios de* が使われた場合どんな時制形式が使われるのか。筆者が1980年から2004年までの範囲で *a principios de este mes/año* と共起する現在完了形と単純過去形を統計調査したところ、*a principios de este año* での現在完了形使用率は5% (1例:20例)、*a principios de este mes* でも13% (3例:21例) と圧倒的に現在完了形の使用率は少ない。また、*hace unas horas* も RAE y ASALE が言うほど現在完了形と親和性が高いわけではなく、1900年から2012年までの期間で調べると現在完了形使用率は単純過去形に対して44%である (14例:18例)。すなわち、話者の“今”を含む時間領域の内在的な過去は、話者にとってはアオリスト事態と認識されやすいことが示唆される。この関係性は、Alarcos (1980:24) が言うように、*esta mañana* や *antes* は、それらがそれぞれ *esta tarde* や *ahora* と対立されたときには単純過去形を使うことができるという意見や¹⁴⁾、Seco (1975:74) の、心理的現在には、*Esta mañana ha llovido.* では“*hoy*”だが、*Esta mañana llovió.* では“*esta tarde*”であるという記述からも理解できる。

hoy, esta mañana, este mes, este año は、すべて直示的な特徴を有しており、冒頭の統計資料で見たように、現在完了形との高い親和性を示している点において同じである。ところが、*esta mañana* に関しては、必ずしも *esta* と「現在」が直示的に一致するわけではないという

ところが異なっている¹⁵⁾。この2種類の近接的指示副詞 (hoy, este mes/año と esta mañana) と共起する現在完了形は、その変遷時期が異なることから、基本的には2つの異なった用法から派生していると考えられる。すなわち、前者とは、現在完了形がおそらく継続や直前の用法を獲得した後に、Alarcos の言うように「拡張された現在」として共起されるようになったのであろう。そして、その後、冒頭で述べたような話者の“今”の外にあるような事態、すなわちアオリスト事態を示す *anoche* や *ayer* と共起する現在完了にいたるその前段階の存在として *esta mañana* との用法が始まったのではないかと考えられる。Cartagena (1999:2945) は、単純過去形と現在完了形の相違点に言及し、単純過去形は発話時から見た単なる前時性を表し、発話時とは離れた過去に独自の領域を設けるのだが、現在完了形は話者にとっての現在 (*actualidad del hablante*) に属しながら、現在 (*presente*) の領域内で前時性を設けるのだ、としている。つまり、現在完了形がアオリストを示すために、発話時と離れて過去の事態をいきなり示すようになるのは難しいことから、まずは、直示的な指示形容詞 (*esta*) を手がかりとして *he* の時制 (現在) との一致を保持しつつ、実は話者の“今”とは離れた過去の領域 (*esta mañana*) を示したのではなかったのか。結局、*esta mañana* との共起が現在完了形のアオリスト指示への入り口になったのである。

3. 結論

以上のことから、通時的に見れば現在完了形が *hoy, este mes, este año* と使われるのは、同形式が形態統語論的に安定 (過去分詞が男性単数形に固定) して完了性を獲得し、その直後に発達してきたまさに現在の拡張用法であるが、*esta mañana* はその次の段階の用法の始まりである。具体的には、Alarcos (1980) が現在完了形の用法の変遷について提示した①～④について、④を二つの時期に分けることを提案したい。すなわち、④「拡張された現在」用法の第1期は、純粋に話者の“今”を含む事態を示す用法 (指示副詞は *hoy, este mes, este año* など)、そして第2期は、近接性を示す直示的な指示形容詞が使用されているが、狭義には話者の“今”を含まないアオリストに近い事態を示す用法 (指示副詞は *esta mañana*) である。

esta mañana と共起する現在完了形について、それは *hoy* という時間内の事態であるからという説明から受ける違和感は、*ayer* と共起する現在完了形について、それは *esta semana* という時間内の事態であるからという説明から受ける違和感と共通するものである。*esta mañana* は、*hoy* の内在的な過去なのである。それはたとえば、*a principios de este año* は *este año* の中に内在する過去の事態と捉えることができるのと同じことであり、現代スペイン語でもほとんどの例を単純過去形が占めているように、明らかなアオリスト事態である。さて、*este mes/año* の内在的な過去を示す *a principios de este mes/año* と、*hoy* の内在的過去であ

る *esta mañana* の違いは何か。それは、内在的過去を示す表現に近接性を表す直示的な指示形容詞が前者にはなく、後者には *esta* として顕在しているということである。この違いは大きい。特に書き言葉は統語的に顕在する文要素には敏感である。RAE y ASALE (2009:1723) は、*he cantado* の *haber* の時制（現在）は、*En este siglo la ciencia ha experimentado grandes avances.* という文における *este* と同じ直示的な特徴を有しており、このような助動詞の時制と指示詞の間の直示の特徴は現在完了形が現在形と意味特徴において類似していることを統語的に示すものであるとしている。ただ、*esta mañana* は、話者の“今”が午前でない限り、厳密には話者の“今”から外れた時間での事態であり、それ故に、他の *este mes/año* と同時期には現在完了形が一般化することはなかった。しかし、同形式のアオリストへの接近という流れや圧力の中で、1800年代になって現在完了形との共起が発達し始めたのであろう。そして、統語的な側面からそれを後押ししたのが、*esta* という近接性の直示的指示詞の存在であったものとする。このことを契機として、*esta mañana* と *anoche* との境界が意味的に曖昧になってきて、冒頭に述べたような現象に至っているのではないか。つまり、*hoy, este mes/año* と *esta mañana* は、発達の原因がそもそも異なっていたのである。

hoy, este mes/año や *esta mañana* が現在完了形と共起することに関して、単なる「心理的現在」や「拡張された現在」の拡張にすぎないという考え方が一方、前述したように Hernández (1982) や寺崎 (1998:37) はアオリストへの接近と捉えているし、Harris (1982) は、ロマンス語学的観点から、スペイン語の現在完了形はアオリスト前の第3期にいてるので、*anoche* や *ayer* などに現在完了が使われ定着すれば、明らかな第4期、アオリスト用法の獲得であろう。また、寺崎 (1987:75) は、現在完了形が *pasado indefinido* (注8参照) や *pasado inmediato* を示す用法を獲得すると、程度の差はあれアオリストの領域に侵入し始めるようである、としている¹⁶⁾。

辻井 (1996) は、総合的形態から分析的形態への変化的圧力の中での時制システムの変化を考察しているが、アオリストに接近する現在完了形もそれと関係しているのかもしれない。その検証は今後の課題としたい。

注

- 1) 本稿は、2016年10月15日キャンパスプラザ京都において開催された関西スペイン語学研究会第397回例会での口頭発表に基づくものです。参加者の皆さんには貴重なご意見をいただき、心から御礼を申し上げます。
- 2) Seco (1975:74)、寺崎 (1998:36)、西川 (1995:322) など。また、Alarcos (1980) は「拡張された現在」(*presente ampliado*) という名称を使用している。
- 3) *en* 以外の前置詞句の付加されたものは除外した。なお、近接的指示副詞には、直示的用法 (*este año*

なら「今年」)と照応的用法 (este año なら「この年」)があるが、話者の“今”を含む用法とは前者のことであり、本研究では後者の照応的用法は対象としない。

- 4) 現在完了形と単純過去形の例数、及び調査期間は、hoy (2012) : 374対153, esta mañana (2000-2012) : 739対246, este mes (2000-2014) : 60対23, este año (2012-2014) : 75対19である。なお、hoy や este año は用例が多く、特に後者での照応的用法を排除するために各文脈を吟味する必要があることから、年数を少なくして例数を制限した。
- 5) La utilización de una forma propia de lo simultáneo al origen al lado de un adverbio que indica la ruptura con respecto a él confiere un claro valor de proximidad psicológica al acontecimiento referido.
- 6) En español moderno significa la acción pasada y perfecta que guarda relación con el momento presente. Esta relación puede ser real, o simplemente pensada o percibida por el que habla.
- 7) Tsujii (1996:100)によれば、直接目的語が男性単数や節である場合を除く <haber+p.p.> を調査した結果、*El Conde Lucanor* (1335) においては87%が、*Arcipreste de Talavera o Corbacho* (1438) では89%が不一致であった。
- 8) これは寺崎 (1987:68-69) が、“resultativo”, “continuativo”, “pasado inmediato” と並んで提案した現在完了形の用法であり、“perfecto de experiencia” と同義で He pasado un mes en París. や Durante el siglo actual se han escrito innumerables novelas. のような例を出している。
- 9) 検索対象は hoy(oy), hoy(oy) día, el día de hoy(oy) とし、動詞形式は、継続・反復や経験の用法を避けるために否定文を除外し、目的語が男性単数形以外の過去分詞と目的語の明白な一致は対象外とした。なお、1700年代以外は例数がたくさんあり、いくつかの年代では文脈を吟味するために例数を制限した。具体的には、各年代の真ん中 (50年) を中心に前後に検索範囲を広げていき、結果が約100例前後になるように調整した。
- 10) 「直前の出来事」である ahora(agera) と現在完了形の共起も調査した結果、ほぼ hoy の発達と同じであった。ただ、1500年代では50%を、1600年代以降はすべて90%を超えることから、同形式との親和性は圧倒的に高い。*El Conde Lucanor* (1335) の言語を詳細に研究した Hoyos (1982:404) は、この作品で現在完了形と共に使われている副詞はほとんど agora であると述べているように、すでに14世紀で一般的になっていたようである。ここから ahora との共起が (原初の用法である結果を表すこともあるので) 基本にあり、それが hoy に拡がったのではないかと推測する。
- 11) 検索に際しては、en 以外の前置詞が付随するものは対象外とした。また、“este mes de ~ (月名)” も除外している。というのも este mes de junio という表現は、話者の“今”が junio と一致するとは限らないからである。
- 12) Marcio. – Pues nosotros por obedeceros y serviros **avemos hablado** esta mañana en lo que vos **avéis querido** y muy cumplidamente os **avemos respondido** a todo lo que nos **avéis preguntado**, cosa justa es que, siendo vos tan cortés y bien criado con todo el mundo como todos dicen que sois, lo seáis también con nosotros, holgando que hablemos esta tarde en lo que más nos contentará,

respondiéndonos y satisfaziéndonos a las preguntas que os propornemos, como nosotros **avemos hecho** a las que vos nos **avéis propuesto**. (*Diálogo de la lengua*, Juan de Valdés, p.3)

- 13) グラフ化にあたり、1700年代の *este mes* は空欄で処理した。
- 14) Hay... que señalar que con *esta mañana, antes*, se puede emplear el perfecto simple cuando las dos expresiones temporales citadas se sienten como oposición a *esta tarde, ahora*.
- 15) まとまった用例数が得られなかったので *esta semana* は表にしなかったが、1500-1599で7例中3例(43%)が、1600-1699で29例中13例(45%)が、1700-1799で7例中7例(100%)というように早くから現在完了形が使われており、*este mes* や *este año* と同じく話者の“今”と当該時期が一致するグループに属すると考えられる。
- 16) ... parece que una vez conseguidas las funciones del pasado indefinido e inmediato, el PC empieza a penetrar en mayor o menor grado en el territorio del aoristo.

参考文献

- Alarcos Llorach, Emilio (1947). “Perfecto simple y compuesto en español”, *Revista de filología española* XXXI, pp.108-139.
- (1980). *Estudios de gramática funcional del español*, Madrid: Gredos.
- Andres-Suárez, Irene (1994). *El verbo español*, Madrid: Gredos.
- Cartagena, Nelson (1999). “Los tiempos compuestos”, *Gramática descriptiva de la lengua española*, II, pp.2935-2975, Madrid: Espasa.
- Company Company, Concepción (1983). “Sintaxis y valores de los tiempos compuestos en el español medieval”, *Nueva Revista de Filología Hispánica*, 32-2, pp.235-257.
- (2006). *Sintaxis histórica de la lengua española. Primera parte: La frase verbal*. vol.1.
- García de Diego (1970). *Gramática histórica española*, Madrid: Gredos.
- Gili Gaya, Samuel (1976). *Curso superior de sintaxis española* (11ª ed.) Barcelona: Bibliograf.
- Harris, Martin (1982). “The ‘past simple’ and the ‘present perfect’ in Romance”, *Studies in the Romance Verb*, Nigel Vincent and Martin Harris (eds.), pp.42-70, London: Crom Helm.
- Hernández Alonso, César (1982). *Sintaxis Española*, Valladolid: s.n.
- Hoyos Hoys, María del Carmen (1982). *Contribución al estudio de la lengua de “El Conde Lucanor”* Universidad de Valladolid.
- 西川喬 (1995). 「第17章 動詞－時制」, 『中級スペイン文法』 pp.301-331, 東京：白水社.
- Penny (2000). *Variación y cambio en español*, Madrid: Gredos.
- Real Academia Española (1979). *Esbozo de una nueva gramática de la lengua española*, Madrid: Espasa-Calpe.
- Real Academia Española y Asociación de Academias de la Lengua Española (2009). *Nueva gramática de la*

- lengua española*, Vol. I y II, Madrid: Espasa Libros.
- Rojo, Guillermo (1974). "La temporalidad verbal en español", *Verba* I, pp.68-149.
- (1990). "Relaciones entre temporalidad y aspecto en el verbo español", *Tiempo y aspecto en español*, Ignacio Bosque (ed.), Madrid: Cátedra.
- Salvá, Vicente (1988). *Gramática de la lengua castellana* I, Madrid: Arco/Libros.
- Seco, Rafael (1975). *Manual de gramática Española* (10ª ed.), Madrid: Aguilar.
- 鈴木恵美子 (2004). 『スペイン語の単純過去形と現在完了形の通時的研究』, 博士論文, 東京外国語大学.
- 寺崎英樹 (1987). "Perfecto compuesto español en comparación con otras lenguas románicas", 『スペイン語学研究』 2, pp.65-80.
- (1998). 『スペイン語文法の構造』, 東京: 大学書林.
- Thibault, André (2000). *Perfecto simple y perfecto compuesto en español preclásico*, Tübingen: Niemeyer.
- Tsujii, Muneaki (1996). *Un estudio sobre las formas en -RA y -SE, y 'había + participio' en el español medieval - Dentro del marco de la transición desde la forma sintética hacia la analítica -*, 大阪: 関西外国語大学出版.
- 辻井宗明 (1996). 「中世スペイン語時制システムにおける絶対先時性と完了先時性の対立」『言語探求の領域』, pp.331-342, 東京: 大学書林.
- Urruita Cárdenas, H y Álvarez Álvarez, M. (1983). *Esquema de morfosintaxis histórica del español*, Bilbao: Universidad de Deusto.
- Yllera, Alicia (1979). *Sintaxis histórica del verbo español: Las perifrasis medievales*, Universidad de Zaragoza.

コーパス

- Juan de Valdés, *Diálogo de la lengua*, Edición, introducción y notas de José F. Motesinos, Madrid: Clásicos Castellanos.
- Real Academia Española. Corpus de Referencia del Español Actual (CREA <<http://corpus.rae.es/creanet.html>>) (最終アクセス: 2016年7月30日)
- Corpus Diacrónico del Español (CORDE<<http://corpus.rae.es/cordenet.html>>) (最終アクセス: 2016年7月30日)
- Corpus del español del siglo XXI (CORPES<<http://web.frl.es/CORPES/view/inicioExterno.view>>) (最終アクセス: 2016年7月30日)

(つじい・むねあき 外国語学部教授)

